intertek
Total Quality. Assured.
Intertek News
Vol.58
(2017年10月発行)
ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 経営者の畑仕事

02 03 特集
生産性向上を実現するISO9001:2015

04 News&Topics
- 服部幸應氏と弊社代表取締役の対談記事が「週刊ホテルレストラン」に掲載
- 審査員会議
- 2015年版移行審査対応状況
- Q&A

05 審査の現場から
- お客様紹介
  (新日本リース株式会社)
- 連載よみもの「審査員の心理」(環境編)
  「リスク及び機会」

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
  「私のボランティア」
  (審査員　松井 利成)
- 環境とISO14001
  「環境側面(1)」

07 お客様からのお便り
- 「カッターナイフ【オルファ】は【折る刃】から」
  (オルファ株式会社)
- 「笑顔がこぼれる 美味しい商品」
  (イケダヤ製菓株式会社)

08 研修コースのご案内
- Information:Vision & Missionのご紹介
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
  (中国興業株式会社)

インターテック・サーティフィケーション株式会社
発行 大阪事務所 ◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇
◆Intertek Newsのバックナンバーは弊社ホームページでご覧頂けます。
http://ba.intertek-jpn.com/

経営者の畑仕事

認証部 部長 本田(ほんだ) 彰(あきら)

「私はいつも畑仕事をしています」ーこれはある経営者の言葉です。その方は農業を営んでいるわけではなく、趣味のことを言っているのではありません。その方にさらに聞くと「野菜を育て収穫できるようにするため一番大切なのは土作りだと思ってます。土作りは一夜にしてできるものではなく、よい土にするには手入れを繰り返す努力をしなければなりません。その努力の結果、根はよく伸びて水分や栄養分をよく吸収でき、つやつやとしたよい色の野菜を収穫できるようになります…そう考えると私が日々していることは畑仕事によく似ているんですよ」ーここでその方が経営者として大切にしていることを畑仕事にたとえていたことが分かりました。

実際その組織の社員の方に話を伺うと、経営者は毎朝社員の目を見て挨拶することで社員の健康状態を確認し、また、出入りする業者の方々には社員からお礼の言葉で感謝するよう常に習慣づけておりました。社員同士のコミュニケーションの場を大切にし、そこから生まれる信頼関係がお互いの責任感となり、一人ひとりの仕事のやりがい、成長につながっている、と聞きました。その経営者はこのように地道に働きかけ、よい風土、文化を形成することで職場の土壌を醸成していたわけです。よい風土や文化を作ること=畑仕事、土作りこそが経営者の大切な仕事の一つということを言っていたのでしょう。

今は非常に厳しい時代、多くの組織は生き残りをかけて日々活動しています。売上利益第一主義を掲げ活動している組織も多いと思いますが、一方で挨拶や礼儀が忘れ去られていることもよく耳にします。売上利益は経営者と社員の信頼の成果だと思いますが、組織のよい風土や文化が基盤となり積もっていくものなのかもしれません。だからこそ普段から風土、文化作りが大切でありじっくりと時間をかけることが必要なのでしょう。

繰り返しの努力が経営者と社員の信頼を築き、やがては形では現れない組織の資産となり蓄積されていく、これが社員、経営者、そして組織の元気な姿になっていくのかもしれません。

－ 効果的活用に向けて －

生産性向上を実現する ISO9001：2015

角子 裕司

特集

2015年版規格では、パフォーマンスが重視され、より一層の有効活用が期待されます。今回の改訂を機に、有効活用に向けて、システムの見直し・再構築に取り組まれるお客様もいらっしゃるかと思います。今回は、ISO9001：2015の運用により生産性向上を実現するための取組みについてご紹介します。効果的運用にお役立ていただければ幸いです。

（編集部）

0 はじめに

近年、少子高齢化による「労働力人口の減少」や、働き方改革による「長時間労働の是正」などにより、中小企業の生産性向上が大きなテーマとなってきています。政府も中小企業への支援策として、生産性向上に役立つ、設備投資、人材育成、IT利活用を促進する補助金などの支援策を積極的に打ち出しており、生産性向上は全国的な急務の課題といえます。

1 形骸化したISOは生産性を下げる

この課題に対し、ISO9001取得企業は自社のマネジメントシステムの運用を通して、生産効率の向上を図ることを期待されますが、残念ながら思惑通りの成果を出せていない企業が多くあります。

成果を出せていない企業に共通する特徴は、実際の業務プロセスとマネジメントシステムが乖離し、形骸化したシステム（殆ど読まれない無駄な文書、ISOのための記録、形式的な内部監査、不良削減に寄与しない形だけのシステム、事業計画と整合していない品質目標など）になっている傾向があり、費用対効果も低いのが現状です。

ISOが形骸化している企業では、ムダな作業が増え、生産性を下げるマイナス効果を生み出し、生産性向上活動のお荷物になっています。このような企業の経営者は、「ISOは経営に何の役にも立たない・・・」とよく嘆かれますが、『ISOは両刃の剣』とお伝えしています。

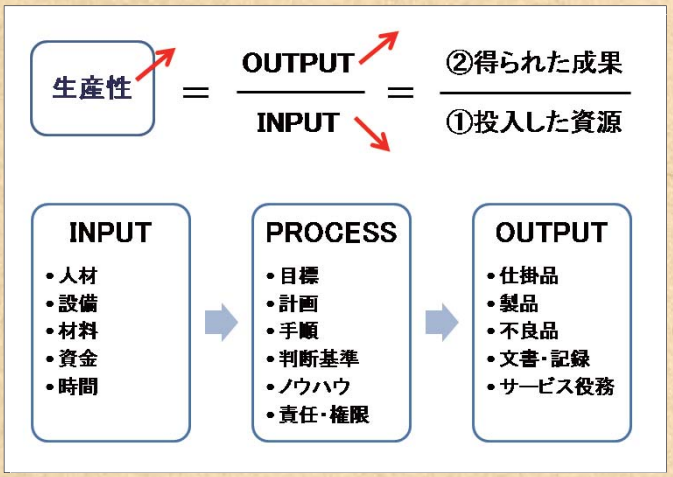
自社の状況に相応しい仕組みを上手く構築して全社員で運用すれば、生産性を上げて会社に利益をもたらしますが、その逆になれば生産性を下げて不利益を与えます。つまりISOは、あらゆる組織に適用できますが、効果の面から見ると『使い手を選ぶ経営ツール』といえます。

2 ISO9001：2015は生産性向上に有効なツール

さて、生産性とは、「得られた成果」÷「投入した資源」で表され、生産性向上の取り組みは、以下の2ステップです。

ステップ－①：現場のあらゆるムダを排除し、分母である投入資源を削減する。
（これには自ずと限界がある）

ステップ－②：ムダとりで創出した資源（労働力、時間、資金等）を、分子である成果（付加価値）を向上させる取組みに投入する。



生産性向上とISO9001:2015の関連

大項目	中項目	小項目 ⇔	ISO 9001:2015関連要求事項
生産性の向上（固定費の有効活用）	労働生産性の向上	作業標準の作成と見直し	7.5 文書化した情報 8.5.1 製造及びサービス提供の管理
		多能化による1個流し	7.1.6 組織の知識 7.2 力量
		整理・整頓の励行	7.1.4 プロセス運用に関する環境
		レイアウトの改善	7.1.3 インフラストラクチャ
		ポカミスの徹底防止	8.5.1 製造及びサービス提供の管理
		ムダな会議の見直し	7.4 コミュニケーション
		ストレス軽減への配慮	7.1.4 プロセスの運用に関する環境
		ベテランの持つ技能継承	7.1.6 組織の知識 7.2 力量
	設備生産性の向上	段取り時間の短縮	8.5.1 製造及びサービス提供の管理
		生産設備の予防保全	7.1.3 インフラストラクチャ
		監視機器の適正管理	7.1.5 監視及び測定のための資源
		生産性のバラツキ減少	8.5.6 変更の管理

日本の中小企業は、改善活動などを通して、投入資源を削減するステップー①は得意な一方、重要性は高いが緊急性の低いステップー②への取組みには、まだまだ改善の余地があります。

中小企業の成長のカギは、ステップー①の活動を標準化して、資源（人材、時間、資金）のゆとりを生み出し、そのゆとりをステップー②への取組みに活用する事といえます。

【ステップー①への取組み】

生産性には、労働生産性や設備生産性などがあり、これらの向上活動を推進する具体的なアクションプランをISO9001:2015の関連する要求事項の中で、5W1Hを明確にして管理します。

【ステップー②への取組み】

成果の向上として、ISO9001:2015の「4.2利害関係者のニーズ及び期待の理解」、「5.1.2顧客重視」、「8.3製品及びサービスの設計・開発」などで、顧客が求める新規製品やサービスを提供するための仕組みを作り、付加価値を高める活動を管理します。

尚、生産性の向上は「固定費の有効活用」になり、財務改善活動では最初に検討すべき重要な項目です。この「固定費の有効活用」の後に、制度改革「固定費の削減」⇒外注対応「変動費の削減」⇒顧客対応「売上高の向上」と順次取り組むことで、利益創造への道が拓かれます。

3 おわりに

現代の様な環境変化の激しい時代に、従来通りのやり方に固執する企業は他社に追い抜かれ、やがて市場から淘汰されることになるでしょう。

経営者は、現状維持を「後退」と認識し、従来の常識（既成概念）に囚われず革新的な取り組みに挑戦する強いリーダーシップが求められます。

2015年改訂を良い機会として、自社の現状をきちんと反映したISO9001の再構築及びその運用を通し、生産性の高い永続企業を目指しましょう。

筆者紹介

角子 裕司（かくし ゆうじ）

各種マネジメントシステムの構築及び運用支援サービスでの実績多数。中小製造業の経営体質強化支援を専門に活動。兵庫県在住。

服部幸應氏と弊社代表取締役の対談記事が「週刊ホテルレストラン」に掲載

日本を代表する料理研究家で、料理学校・服部学園の理事長でもある服部幸應氏と弊社代表取締役 坂井喜好の対談記事が、ホテル・レストラン業界の専門誌『週刊ホテルレストラン』6月23日号に掲載されました。今回の対談は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて毎月1回掲載されている「服部幸應の2020東京大会会談」企画の第3回として実現したもので、オリンピック・パラリンピック開催まで毎回関係各位に服部氏がインタビューされます。

オリパラで必要とされている1400万食には、食材の安全性などに国際基準が求められています。対談では、日本独自の安全・安心な農産物の証であるJGAP(農業生産工程管理)の最大手認証機関として、オリパラで通用する国際的なワンランク上のASIAGAPを含めた現在の状況、今後の課題や展望などについてお話しさせていただいております。詳細は、弊社HPに掲載の記事をご覧ください。(http://ba.intertek-jpn.com/)

服部幸應氏(右) と 弊社代表取締役 坂井喜好

※本年8月1日よりJGAP BasicはJGAP 2016、JGAP AdvanceはASIAGAP Ver.1に改名されています。

審査員会議

弊社ではISO9001・14001・27001・OHSASなどの規格別に年間複数回と、全規格合同で1回、審査員会議を行っています。9月に開催しましたISO9001・14001各会議では間もなく移行期間が終わりとなる2015年版規格審査の対応などを中心に進められました。今回は昨年9月に引き続き、ウェビナー(インターネット上で行うセミナー)方式で行われました。同方式は、主催者側の状況を参加する審査員が各自のパソコンから同時視聴できる為、大きなメリットがあり、多数の審査員が参加し最新情報を確認しています。具体的にはISO9001会議では、①製品及びサービスの設計・開発の考え方(8.3)、②適用範囲の適切性について(4.3)などが、取り上げられました。ISO14001会議では、ISO14004:2016(環境マネジメントシステム一実施の一般指針)から、環境側面、環境影響、リスク及び機会、取り組みなどの説明がありました。

ISO14004:2016は、信頼性のある環境マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、継続的に改善することに関する、組織の為の指針です。ご興味があれば、日本規格協会のHPから購入いただけます。

2015年版移行審査対応状況

ISO9001、ISO14001の2015年版への移行期限が残り1年を切り、弊社では、毎月2015年版移行審査の対応状況をエリアごとに確認し、お客様の移行推進に繋げています。2017年9月初め時点での確認状況では、特に大規模組織や建設業の移行対応が多く見られました。本誌が発行される10月初めの推定状況としましては、対応状況が遅いエリアでも約7割、早いエリアではすでに9割を超える見込みです。旧規格(ISO9001:2008、ISO14001:2004)は、移行期限を過ぎると失効してしまいますので、移行審査は、余裕を持って2018年3月頃までに完了されることを推奨しています。対応に不安をお持ちの方は、弊社各営業担当までお気軽にご相談ください。

Q&A

2015年版への移行審査に関するご質問についてご紹介します。

Q1. 2015年版のマニュアルを作りました。移行審査の前にマニュアルが2015年版に沿った形になっているのか心配なので、マニュアルのチェックをお願いできれば安心なのですが、そのようなサービスはありますか？

A1 2015年版のマニュアルを移行審査の前にチェックするサービスは行っておりません。
ただ、審査前に、担当の審査リーダーから「マニュアルを審査前に送って下さい」と依頼する場合がありますので、その場合は任意でマニュアルを送って下さい。審査前に担当審査リーダーが内容の確認をさせて頂きます。この確認は、審査の一環として行うものであり、事前にマニュアルの内容に対してコメントしたりフィードバックをすることはありません。

Q2. 2015年版の移行審査を通常の定期審査と一緒に受けた場合、定期審査と移行審査が重なって、準備などが大変にならないか心配です。別々に審査を受けた方がいいと思うのですが、いかがでしょうか？

A2 別途受けて頂くことはできますが、余分な費用が発生することもあって、特にお奨めしていません。定期審査と移行審査が別々と考えるのでは無く、定期審査の中で、並行して移行も確認するイメージです。
但し、2015年版移行審査の受審が遅れている場合は、来年の定期審査(移行審査)を、通常より早めに前倒しで受けて頂かなければいけないことがあります。(2018年3月迄の受審を推奨しています)

お客様紹介

新日本リース株式会社 様

（ISO9001：2015、ISO14001：2015、OHSAS18001：2007 認証登録）

〔取材者〕 マーケティング担当 **恩田 昌彦**
Masahiko Onda

▲ 2017年7月に完工した新社屋。技能講習用の施設も備えている。

▶ 新日本リース株式会社 取締役部長/事業部長 名津井潤様（左）、「新日本グループ」の新日本輸送株式会社部長 袖野直悦様

新日本リース株式会社様（埼玉県入間郡）は昭和62年創業、足場に関する総合レンタル＆プロデュース企業となるべく、新日本輸送株式会社とともに、「新日本グループ」として顧客満足度の向上に努められています。新日本リースの代表的な直近の施工物件には、UR物件・横田基地・東京消防庁ーお台場「出初式」・横浜「開港祭」・千葉「エアーレース」・日本ゴルフツアー選手権ー宍戸ヒルズなどがあります。平成20年、災害の予防処置活動としてISO9001/14001、OHSAS18001の3規格を同時に認証取得されました。

この認証取得により、平成20年より協力会社を含めた全員参加によるリスクアセスメントが実施され（OHSAS18001はもとよりISO9001とISO14001も含む）、毎朝の朝礼でのKYの発表などを通じて従業員全員の意識の向上が実現しています。その結果、社内の団結力・結束力が一段と強まり、事故や災害発生時の対応が顧客にほめられるなどといった具体的な成果へとつながっているそうです。

スローガンとして「名実と共に一流企業になる」為にISOを利用し続け、一流企業を目指した内部統制・予防処置の積み重ね・事故を起こさない活動などを今以上に徹底していくそうです。

http://www.shinnihon.cc/

連載 よみもの

審査員の心理

第23回（環境編）

「リスク及び機会」

環境主任審査員 **大村 敏夫**
Toshio Omura

2015年版の規格改訂で変わった所として、“予防処置”という項目が無くなった点が挙げられます。これは予防処理が不要となった訳では無く、マネジメントシステムで管理することが予防処置である、ということで、マネジメントシステムの至る所に予防処置が存在していると考えられます。「6.1 リスク及び機会への取組み」で、リスクを特定し取組みを決定することは、リスクを回避することであり、予防処置になります。ここで認識されたリスク及び機会への取り組みが、マネジメントシステムの中で展開されることになります。

“リスク及び機会”を捉えることは難しいかもしれません。ISO14001の規格では、“リスク”と“機会”を分離した記述は無く、常に“リスク及び機会”と組み合わせて使われています。リスクを回避することが機会にもなるとも捉えることができます。環境事故などは明らかなリスクでしょうが、定常状態でも管理の不備から環境負荷の増加、エネルギーや資源の浪費が発生するかもしれません。環境上のリスクは組織のリスクになるかもしれません。法に抵触する事態は、その程度によっては操業停止になるかもしれません。機会については、環境事故を起こした時の損失を回避できる、適正な管理状態でコストが下げられる、利害関係者からの信頼が得られるなどの機会になるかもしれません。“リスク及び機会”を考える際には、組織の状況、環境側面、順守義務なども考慮します。ISO14001では、これらの繋がりがやや複雑になっています。「6.1.4 取組みの計画策定」で取組みを決めなければならないものには、“著しい環境側面”もありますが、著しいとされなかった環境側面についても“リスク及び機会”が存在したら取組みの対象となります。例えば、“水の使用”に関する環境側面は著しいとされていなくても、河川が汚染され水道水にも有害物が混入するという事態が起こるかもしれません。このように考えると“リスク及び機会”は際限なく出て来そうですが、規格では「取り組む必要がある“リスク及び機会”」としていますので、取組みの必要性を組織で判断して選択はできるものと解釈できます。審査の場では、「取り組む必要がある“リスク及び機会”」にどのようなものがあるか、組織の方と考えてみたいと思います。“取り組む必要があるリスク及び機会”と特定したものであるので、その取組みを明確にしなければなりません。このような“リスク及び機会”、“著しい環境側面”、“順守義務”についての取組みにより環境マネジメントシステムが構成されることを規格が意図しているものと捉えています。

審査員リレーエッセイ ⑯

From
兵庫県姫路市
松井 利成
（まつい　としなり）

Profile
専門分野：ISO9001－電子、研究開発、電気、土木建築、情報処理、ガラス製造、金属加工、介護
経　　歴：岡山理科大学 講師、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「私のボランティア」

私は審査の無い日は、長年、身体障害者にパソコンを教えているボランティアを行っています。対象者は、単なる手足が不自由なだけではなく、対話が困難な人です。手足が緊張していて自由に動かす事が出来ません。どこか本人の意思で確実に動かせる肢体あれば、文書作成ができる工夫をしています。現在は、本人の腕(左右)、顎(上下)、足指を使用して文字入力をしています。それを家族や友人の携帯電話にメールを送付しています。家族の家族はほとんど会いに来ません。電話や手紙の代わりにしています。メールの文書は代筆ではなく本人が入力している事に感謝されています。私の仕事はパソコンの画面が突然変わったり、フリーズした場合の対応です。障害者との対話をよく行い、現在のメールに加えてインターネットの閲覧、絵を描く等の範囲を広げ、満足度を上げていきます。

連載「環境とISO14001」⑯

「環境側面（1）」

環境主任審査員　郷古 宣昭 *Nobuaki Goko*

環境側面とは「環境に影響を与える活動・サービス・製品の要素」であり、これらに取り組み、或いはこれらを管理することが利害関係者から求められています。ISO14001は管理すべき事項を以下のように示しています。

- 持続可能な資源の利用
- 環境汚染の予防
- 気候変動の緩和と適応
- 生物多様性と生態系の保護

1. 持続可能な資源の利用

資源は世界の人口70億人を支えるのに十分でなく、とりわけ金属資源、森林資源、水資源が危機的な状況にあります。

鉄、アルミ、マグネシウムを除いて殆どの金属は品位が低く、採掘時に膨大な廃棄岩石が、また選鉱時には大量の汚泥が排出され、そのまま放置・放流されて大規模な環境破壊を引き起こしています。また、木材やパルプ用に違法な伐採や、パーム油工場や牧草地への転換のために、貴重な酸素供給源である熱帯雨林の消失が続いています。さらに、水資源については、地下水を農業用の水源としている地域が多いため慢性的な不足状態にあります。比較的水に恵まれている日本は食料の輸入が多いために食料生産に必要な水需要が少ないだけで、食料自給率を大幅に上げる余裕はありません。

2. 汚染の予防

様々な種類の汚染物質又は廃棄物の意図しない発生・排出は回避すること、又は定常的な発生排出を管理することを「汚染の予防」と言います。これには代替材料、代替エネルギーの利用、再利用、回収、再生が含まれます。

最近は、電力購入先を自由に選ぶことが可能になり、CO_2排出係数の小さい電力や自然エネルギーだけの電力を購入することが可能になりました。

3. 気候変動の緩和と適応

気候変動について、今年の夏は猛暑と豪雨が猛威を奮いました。気温上昇がまだ0.6℃程度なのに、2℃迄上がったらどのような状態になるか、想像できません。

一刻も猶予できない状況にあり、異次元のドラスティックなCO_2の排出抑制策が必要です。CO_2の排出を抑制しても気温の上昇による悪影響は避けられないことから、環境省は2015年7月に以下のような緊急に対応すべき分野を発表しました。

- 水稲、果樹の生育時期変動
- 無降水日数の増加及び渇水増
- 植生分布、野生鳥獣分布の変化
- 大雨、突風、大型台風増への対応
- 熱中症、感染症への対応
- 生産活動、レジャーへの影響
- 物流、鉄道、港湾、空港、道路、水道インフラ等の補強対応

4. 生物多様性と生態系の保護

私たちは、酸素供給や穏やかな気候、食物、建設資材等の供給を生態系サービスから受けて、健康に生き、豊かな文化を享受してきました。しかし、その生態系が徐々に破壊されてきています、これ以上の破壊が進まないように私たちがやるべきことはないでしょうか。以下のことを考えてみましょう。

- 認証を受けた森林や漁場、生産者の顔がわかる確かな原材料と輸送トレーサビリティーの確保。地産地消。
- 敷地内、作業所内の動植物調査と保護、一時疎開。
- 海外、遠隔地からの受け入れ荷物の検査（外来生物の侵入阻止）
- 外来生物の駆除

さて、次のステップでは、上記の4つの取組み分野について、ライフサイクルアセスメントを考慮して、直接影響・間接影響を問わず、広く環境側面を洗い出すわけですが、ここからは次回お話しします。

カッターナイフ【オルファ】は【折る刃】から

No.01 Letter

オルファ株式会社（ISO9001:2008認証登録）　営業本部 広報担当　**佐野 雅俊**

世界最初の折る刃式カッターナイフ「オルファ第1号」（1956）

オルファは「折る刃」式カッターナイフのパイオニアとして、常にオリジナルで安全な製品を創り続けています。2013年ISO9001を認証取得しました。

1956年にオルファの創業者である岡田良男は、古い刃先をポキッと折ることで常に新しい刃先が使用できる「折る刃」式のカッターナイフを「割れたガラスの破片と板チョコのミゾ」からヒントを得て世界で最初に発明しました。作業効率を革新的に向上させたカッターナイフの刃の角度や長さや厚みなどは世界基準となりました。

オルファは、確かな品質の商品をお届けするために、設計・開発から製造まで全てを日本国内【MADE IN JAPAN】にこだわります。現在、125アイテム以上の製品を100ヶ国以上に輸出し、プロの職人からアーティスト、学校からオフィスまで世界中の人々に広く愛用される刃物になりました。

おかげさまで創業50周年、いままでも、これからも、「折る刃」式カッターナイフのパイオニアとして、品質・機能・安全性を追究し挑戦し続けます。

本社（大阪市）

▶ https://www.olfa.co.jp

笑顔がこぼれる 美味しい商品

No.02 Letter

イケダヤ製菓株式会社（ISO9001:2008認証登録）　常務取締役　**池田 幸一郎**

当社は昭和33年の創業以来、お客様によろこんでいただくため、常に真心のこもった高品質の商品づくりを心掛けてまいりました。おかげさまで、えび加工製品を中心に多くの皆様方に愛される製品をお届けする事ができ、今日の発展にいたっております。

2007年、ISO9001を以下認証範囲で取得しました。〔認証範囲：菓子（えび・いかせんべい等）の設計・開発及び製造・販売、対象事業所：本社、第一工場、第二工場、直売店一色さかなセンター 魚ひろば、 直売店 海煎工房 えび福〕

時代とともに食生活や嗜好も大きく変遷しつつあり、年々グルメ志向や健康志向、本物志向が高まる中で、菓子加工業界にもこれらの新しいニーズに応えるべき製品づくりが求められるようになっています。

当社では、伝統の味を極めると共に、付加価値の高いオリジナル商品の開発を進め、安心で安全な美味しい商品をタイムリーにお届けするために、品質管理に力を注ぎ開発力と販売力を強化してまいります。

第一工場（愛知県西尾市）

第二工場・本社営業所（愛知県西尾市）

▶ http://www.ikedaya.co.jp/

information

インターテック・サーティフィケーションのVision & Mission

弊社のVision（目標）、Mission（使命）についてご紹介させていただきます。

Vision

インターテック・サーティフィケーションは、
日本を支える小規模組織に付加価値をもたらす審査登録機関のリーダーになることを目指す。

Mission

インターテック・サーティフィケーションは、
認証を通して小規模組織の未来に変革と付加価値をもたらすことを理念とし、
さらに効果のある審査で継続的改善を促す触媒として役立つ使命を持つ。

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地　東京・大阪・名古屋・浜松・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

移行対応セミナー

ISO9001：2015、ISO14001：2015へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解釈、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

- ISO9001：2015 移行対応セミナー　（1日間）
- ISO14001：2015 移行対応セミナー　（1日間）

開催地　東京・大阪・名古屋・浜松・仙台・青森・他

対象者
- ISO9001：2008／ISO14001：2004を既に運用している
- 管理責任者、内部監査員（中～上級者向け）

＊弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO14001:2015内移行セミナーを受講して

環境移行対応セミナー（2017年9月大阪会場）受講

中国興業株式会社
工務部　神谷 秀明

当社は広島県笠岡市のアスファルト舗装業を中心とした建設会社です。ISO14001：2015年版への移行期限が近づいてきたので、今回の講習を受けました。講習開催予定日の2日前に申し込みの問い合わせしたところ、急きょ対応してもらえ、受講することができたので良かったです。

はじめはわからないことばかりでしたが、講師の方が丁寧に説明してくれたので、わかりやすくとても理解しやすかったです。グループワークでは他の受講生の方とも交流でき、また講師の和やかな雰囲気でリラックスして受講できました。

来年の審査では2015年版の移行審査を受けられると思います。ありがとうございました。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://ba.intertek-jpn.com/

東京事務所　〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所　〒532-0003　大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com